

# 古城の春は

(昭和七年寮歌)

大槻均君 作歌

中村小弥太君 作曲

一

古城こじょうの春はるは老おい易やすく  
延齡えんれい草そうの名なに問とへど  
流転るてんの法ほうは断たち難がたし  
友ともよエルムとほの鐘かねを聴きけ  
再建さいけんの秋程ときほどなけん  
ペルアスペラとほと鳴なり響ひびく

二

今移いまうつり来こし原始林もりの蔭かげ  
宿やどるは未いまだ浅あさけれど  
契ちぎりは深ふかき二さん百びやくの  
心こころを交かはすこうの宴たげ  
暁あかつきかけていいぎ撞つかん  
アドアストラあどあすたらの自治じちの鐘かね

三

妖雲よううん西にしに漾ただよへど  
視みよ落日らくじつの悠ゆう々と  
大地だいちを旋めぐり淪しづむかな  
眠ねむる此この城しろ吾われも亦また  
醒さめての生命いのち培つちかはん  
四大しだいの荒すさび明日あすあれば

四

嚴寒げんかん凍こる極北きよくほくに  
霧立きりたちち騒さわぐ曙あけぼのの  
光ひかりを担にのうて起たたんととき  
際涯せいはてもなく寄よせ返かえす  
世紀せいきの波濤なみは狂くるへども  
既倒きとうにかへす力ちからあり

五

竜舵岸りようだきしう打うつ大洋たいようの  
今人生いまじんせいの船出ふなでかな  
白帆はくはん高たかくはためきて  
正氣せいきをはらむ若人わこうじんの  
理想りそうの船ふねは不壊ふゑにして  
さかまく苦海うみを永遠とほに航ゆく